

●2014年12月、種子島宇宙センターから打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」は、長い旅路の末、2018年6月に目的地の小惑星「リュウグウ」に到達しました。その後、予定されていた数々のミッションをすべて成功させ、この11月13日、ついに地球への帰還を開始しました。

果たしてはやぶさ2は、リュウグウのかけらを無事に地球に持ち帰ることができるのでしょうか。

初代はやぶさプロジェクトにおいて、小惑星イトカワへのタッチダウンを世界に発信した、会津大学の寺園先生が、はやぶさ2ミッションの意義と、小惑星探査の未来について、楽しく、わかりやすく語ります。

探査でわかったこと  
そしてこれからの小惑星探査

# 「宇宙講演会」

はやぶさ2のいよいよ帰還へ

令和元年  
12月1日(日)  
午後1時30分～  
伊那市役所1階  
多目的ホール

〒396-8617 伊那市下新田3050

入場無料／申し込み不要／  
定員200名

お問い合わせは伊那市創造館まで。

TEL:0265-72-6220

E-Mail:szk@inacity.jp

※会場は創造館ではなく、  
伊那市役所です。

IMAGE © JAXA 池下章裕



講師 会津大学 企画運営室 先端情報科学研究センター  
准教授  
寺園 淳也(てらそのじゅんや) 氏

1967年東京都生まれ。名古屋大学卒。東京大学大学院博士課程中退。宇宙開発事業団、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、(財)日本宇宙フォーラムを経て、2007年より会津大学。JAXA時代は広報部に所属し、初代はやぶさの小惑星イトカワへのタッチダウンを全世界に発信した。専門は惑星科学、情報科学。月・惑星探査を中心とした情報システムの構築などを専門としている。また月・惑星探査の普及啓発などにも努めている。著書は『夜ふかしするほど面白い月の話』(PHP研究所、2018年)、『宇宙探査ってどこまで進んでいる?』(誠文堂新光社、2019年)など。



月球儀を手にする寺園先生